

禁野火薬庫について調べる

「禁野火薬庫」は1896（明治29）年、砲兵第2方面本署所管の禁野火薬庫として完成し、1945（昭和20）年の敗戦まで、旧陸軍の施設でした。1939（昭和14）年に大爆発を起こし、多数の死傷者を出しました。その50年後の1989（平成元）年、枚方市は大爆発を起こした3月1日を平和の日と制定しました。

「禁野火薬庫」についての資料を紹介します。（郷土資料のコーナーにあります）

1. 禁野火薬庫とは

『戦争と枚方』改訂版 枚方市企画部企画調査室：編 枚方市：発行 1991年（H319.8）

禁野火薬庫の設置、禁野火薬庫の爆発のほか、枚方と戦争の歴史について書かれています。

『枚方市史 第4巻』 枚方市史編纂委員会：編 枚方市：発行 1980年（H216.3）

1909（明治42）年の禁野火薬庫の爆発（p. 401-406）と1939（昭和14）年の爆発の様子が書かれている。（p. 739-750）また、市内にあった軍事施設の枚方製造所、香里製造所についても説明がある（p. 721-725）。

『枚方市史 第5巻』 枚方市史編纂委員会：編 枚方市：発行 1984年（H216.3）

枚方市市域の軍事施設は終戦とともに廃止された。1949（昭和24）年頃から旧陸軍の跡地は次々に払い下げられ、住宅団地などに活用されていった（p. 80-84）。1955（昭和30）年、日本住宅公団は、旧香里製造所および旧禁野火薬庫跡に住宅建設の計画を立てた（P. 469-470）。

『禁野火薬庫爆発遭難手記』増補版 枚方市観光にぎわい部文化財課：編・発行

2025年（H392.1）

昭和14年の禁野火薬庫大爆発の直後に書かれた小野清彦氏の手記、同氏が収集した爆発記事のスクラップ帳、その他の新聞記事から成る。

『禁野火薬庫資料集』 枚方市企画調査室：編 枚方市：発行 1989年（H392.1）

1985（昭和60）年、禁野火薬庫編年史や昭和14年の大爆発報告書などの貴重な資料が出てきた。保管していたのは豊田環氏で、禁野火薬庫の最後の責任者として終戦を迎え、戦後処理にもあたられた方である。遺族から寄託を受けた資料などをもとにこの資料集が刊行された。

『郷土枚方の歴史』 新版 枚方市史編纂委員会：編 枚方市教育委員会：発行 2014年
(H216.3)

禁野火薬庫の設置(p. 231-232)から、昭和の大爆発(p. 254-257)、市内に3つあった陸軍軍事施設の払い下げ(p. 278-279)まで書かれている。

『枚方の歴史』 瀬川芳則[ほか]：著 松籟社：発行 2013年 (H216.3)

2度の爆発(p. 273-278)と戦後の施設の転用(p. 301-304)について説明している。

『楽しく学ぶ枚方の歴史』 新版 枚方市史編さん委員会：編 枚方市：発行

2024年 (H216.3)

爆発当時の写真とともに、わかりやすく説明している。(p. 62-63)

『未来へ思いをつなぐ(Ⅱ)』 枚方市教職員組合「戦争史跡を訪ねて」編集委員会：編・発行

1998年 (H210.7)

「第1話 禁野火薬庫と陸軍造兵廠枚方製造所」(p. 5-12)の中に、当時禁野弾薬庫に勤めていた方の手記がある。

『ひらかた散歩 シリーズ2』 上田義三：編 枚方新聞社：発行 1979年 (H291.6)

枚方新聞に連載していた「ひらかた散歩」という随筆をまとめたもの。昭和43年4月の記事では昭和14年の大爆発のすさまじさについて語っている。(p. 63-72)

『枚方市平和啓発冊子 ー平和のために私たちができること』 第2版

枚方市市長公室人権政策課：発行 2025年 (H210)

枚方市の戦争の歴史と平和への取り組みを知り、平和の尊さを学び行動するきっかけとなる冊子。「軍需のまちだった枚方市」「禁野火薬庫大爆発」「枚方市平和の日」などについて説明している。

広報ひらかた 令和2年(2020年)2月号

巻頭に「市民が証言する81年前の禁野火薬庫爆発」の記事がある。

2. 枚方の戦争遺跡

『大阪の戦争遺跡ガイドブック』 戦争体験を記録する会：編 清風堂書店出版部：発行

1987年 (H216.3)

枚方市内にある戦争遺跡として、陸軍造兵廠香里製造所(p. 98-99)、禁野火薬庫爆発の「殉職記念碑」(p. 100-101)、軍用電柱(p. 101-102)が紹介されている。戦時中、津田駅から禁野火薬庫まで、星田駅から香里製造所までは引込み線が引かれ、原材料、製品の輸送に使われていた。残存していた電柱は連絡電話電柱だったようだ。

『大阪戦争遺跡歴史ガイドマップ 1』 平和のための大阪の戦争展実行委員会,

日本機関紙協会大阪府本部：共著 日本機関紙出版センター：発行 2001年 (H210.75)

マップ編、ガイド編に分かれている。枚方市コースの地図は p.36-37、ガイドは p.78-79。禁野火薬庫跡、枚方製造所跡、旧香里製造所跡、平和ロード、妙見山配水池（煙突山）のほか、百濟寺跡なども巡るコースになっている。

『枚方市平和（戦争遺跡）ガイド』第6刷 枚方市人権政策課：発行 2022年 (H210.75)

1枚ものの地図。香里団地周辺と中宮団地周辺の戦争遺跡を紹介する。市内に残る石碑や忠魂碑も紹介している。

3. 発掘調査関係資料

『禁野本町遺跡』大阪府文化財センター：編集・発行 2006年 (H216.3)

2003年から2004年にかけての発掘調査では、古墳時代、奈良・平安時代の遺構・遺物のほかに禁野火薬庫の一部を検出した。写真、図版によって、出土した釘、砲弾、信管、枕木などを見ることが出来る。火薬庫については p.5-12 に概要が載っている。

『大阪府枚方市禁野本町遺跡 4』 枚方市文化財研究調査会：編・発行 2013年 (H216.3)

平成22年(2010年)から平成23年(2011年)にかけての発掘調査では、古代遺構のほかに、昭和14年(1939年)の禁野火薬庫のトロッコ軌道や転車台が検出された。禁野火薬庫の概要(P.29-32)、近代遺構(p.100-106)の説明がある。

『いま、よみがえる枚方の20世紀』 大阪府文化財センター：編集・発行 2011年 (H210.75)

2011年1月30日に行われたシンポジウム「発掘・復元・検証 いま、よみがえる枚方の20世紀」の資料集。禁野火薬庫の発掘調査、復元、香里工廠の復元などをテーマとしている。発掘によって文献には記されなかった火薬庫の様子が明らかになってきた。禁野火薬庫の年表、当時の施設の構内図など多数の図版や写真もある。

4. 写真を見る

『写真集 枚方市50年』 枚方市市民情報課：編 枚方市：発行 1998年 (H318.2)

旧枚方製造所の写真と説明、枚方事件の新聞記事が載っている。(p.14-15)

『目で見える枚方・交野の100年』 郷土出版社：発行 1995年 (H216.3)

禁野火薬庫作業室や昭和14年の爆発、復旧作業の写真が掲載されている (p.85-87)

5. 雑誌で調べる

- ・京阪沿線陸軍火薬庫始末記 中村浩 「まんだ」第9号(1980年) p.24-27
- ・禁野弾薬庫爆発の体験 中瀬常光 「まんだ」第20号(1983年) p.82-88
- ・姿を現した禁野火薬庫—モノが語る大爆発の衝撃— 駒井正明 「大阪春秋」2016年夏号
No.163 (特集:軍都おおさか) p.32-35
- ・片町線探訪記—軍用施設と軍用側線跡を歩く— 佐々木拓哉 「大阪春秋」2016年夏号 No.163
(特集:軍都おおさか) p.40-41

6. 新聞で調べる

DVD毎日新聞全地方版 平成17年度版～

※5F参考資料室の端末で利用できます

中央図書館参考資料室にある新聞データベース。プリントアウトは1枚10円。

- ・「ふらり各駅停車:京阪電車・御殿山駅 土塁に見る軍事施設の面影/大阪」
2008(平成20)年3月9日
- ・「戦争体験者:死と隣り合わせ、戦時の日常 戦争体験者の証言動画 枚方市、公式YouTubeで
配信」
2021年(令和3年)3月28日

『朝日新聞記事集成 第9集』 枚方市史編纂委員会:編 枚方市:発行 1982年 (H071)

昭和14年の禁野火薬庫大爆発の関連記事が収録されている。爆発の様子、被害の状況、各方面からの救護の様子などが記録されている。(p.9-46)

平和資料室

中央図書館の正面玄関に入って、階段を下りた右手に平和資料室があります。禁野火薬庫大爆発に関する写真を展示しています。

お問い合わせは、人権政策課まで
(072-841-1259)

《お問合せ先》

枚方市立中央図書館 参考資料室

☎573-1159 枚方市車塚2丁目1-1

MAIL: toshokan5-1@city.hirakata.osaka.jp

TEL : 050-7105-8150

FAX : 050-7105-8152

「パスファインダー」とは、「道(path)」を「見つける人(finder)」という意味で、知りたいことを調べるのにどのように資料を探したらよいかを示す手引きのことです。